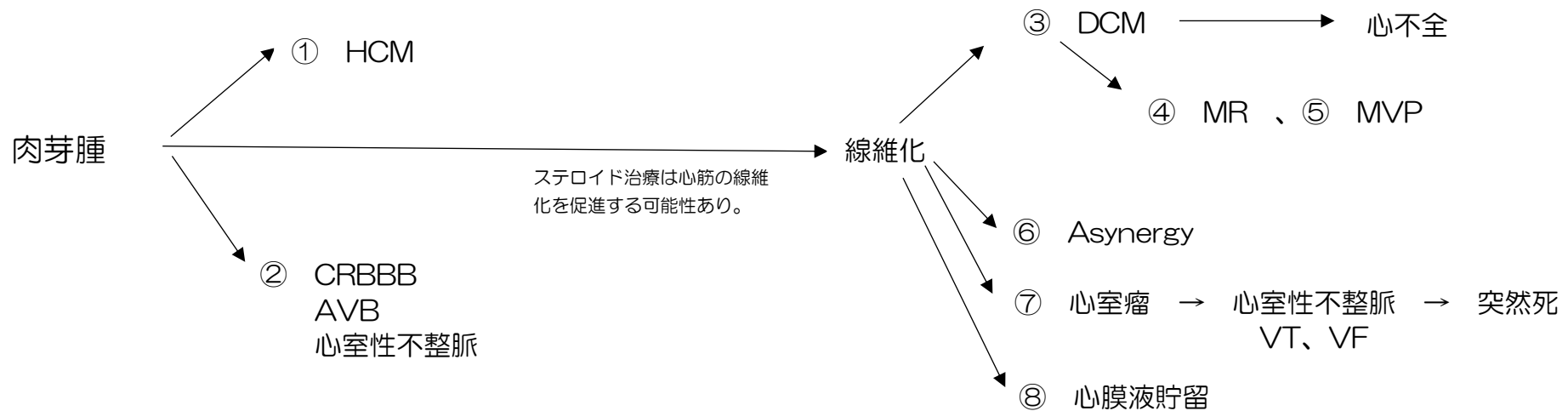


心サルコイドーシス

①心サルコイドーシスとは何か？

心サルコイドーシスとは、肉芽腫が心臓のあちこちに見える炎症性疾患である。肉芽腫の原因は不明であるが、アクネ菌の細胞内増殖によって自己免疫反応がおり、肉芽腫性炎症から炎症後の線維化を来たすのではないかと考えるものもいる。



- ① 心サルコイドーシスの中には壁肥厚を呈し、HCMと酷似する例がある（8/46例）
- ② IVS基部への肉芽腫の浸潤は伝導を障害して、心サルコイドーシスに特徴的な房室ブロック、右脚ブロックの原因となる。
- ③ LV心筋のびまん性の線維化は、DCM類似の症例を来たす。（20/46例）
- ④ LV収縮能の低下や心拡大のために、腱索がMV弁尖を索引することによりMRが起こる。（15/46例）
- ⑤ 乳頭筋機能不全のためMVPを来たすこともある。
- ⑥ 冠動脈疾患で説明できない局所壁運動異常は重要な手掛かりとなる。（23/46例）とくにIVS（上部中隔）、LV後壁側、乳頭筋を含むLV自由壁、RV自由壁に注意。
- ⑦ 心室瘤を構成する壁の成分は主に線維化組織である。（8/46例）心室瘤は治療抵抗性の心室性不整脈の原因となる。
- ⑧ 心膜への病変浸潤により、心膜液貯留を認める。（2/46例）